



日本 ⇄ ミャンマー



ティーンエイジ アンバサダー2016

ミャンマープログラム

実施報告書



AEON 1%
Club Foundation

つながる つづける

平成28年11月16日

各位

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ
本田 陽生

日本⇄ミャンマー 高校生国際交流事業 ミャンマープログラム

実施報告書

この度ミャンマーでのプログラムを実施致しましたので、
下記の通りご報告申し上げます。



↑ホストファミリーと記念撮影をする
日本高校生（写真左から2番目）

記

I. 交流期間：

10月31日（月）～11月7日（月）

II. 主な参加者：

日本高校生	(北海道登別 ^{あけび} 明日高等学校)	16名
ミャンマー高校生	(ダゴン No. 1 ハイスクール)	16名
ミャンマー連邦共和国教育省 教育副大臣	ウィン・モウ・トゥン 氏	
在ミャンマー日本国大使館 参事官	泰松 昌樹 氏	
ジェトロ ヤンゴン事務所	澤田 茉季 氏	
AAR Japan ミャンマー駐在代表	中川 善雄 氏	

III. 訪問場所：ミャンマー連邦共和国（ヤンゴン、ネーピードー）

IV. 事業の目的

次代を担う日本と海外の高校生が相互交流を通じ、互いの国の文化や価値観の多様性を学習・体験。

V. 交流プログラム内容：

① 表敬活動

ミャンマー連邦共和国教育省（教育副大臣と面会）	11/1（火）ネーピードー
在ミャンマー日本国大使館にて歓迎会	11/2（水）ヤンゴン
ジェトロ ミャンマー経済状況レクチャー	11/2（水）ヤンゴン

② 歴史・文化理解活動

日本人墓地訪問	11/2（水）ヤンゴン
ボージョー アウンサン博物館見学	11/2（水）ヤンゴン
托鉢体験	11/3（木）ヤンゴン
AAR Japan 障がい者職業支援施設訪問	11/3（木）ヤンゴン
僧院訪問	11/3（木）ヤンゴン

③ 交流活動

イオン ガンゴースクール訪問	11/3（木）ヤンゴン
学校訪問・授業体験	11/4（金）ヤンゴン
ホームステイ（2泊）	11/4（金）-11/6（日）ヤンゴン
フェアウェルパーティー	11/6（日）ヤンゴン

VI. 活動の様子：

【1】【表敬活動】

◆ ミャンマー連邦共和国教育省表敬訪問 11月1日（ネーピードー）

（学生のスピーチより抜粋）

英語でどれだけ自分の気持ちを伝え、相手の思いを受け止めることができるのかを知りたいです。また、今回のプログラムを通じて異文化理解の面では、物事の捉え方や考え方の違いを含めて互いの国の文化や現状について学びたいです.....。



↑表敬の挨拶と活動への意気込みについてスピーチする日本高校生



↑両国高校生に熱く語りかけるウィン・モウ・トゥン教育副大臣閣下

（スピーチより抜粋）

高校生のみなさんが、若いうちにミャンマーをはじめ、外国の文化に触れられるチャンスがあることは、とても貴重なことです。多くを学び、グローバルに活躍するリーダーになれるようがんばってください.....。



↑北海道旭川市の工芸品である優佳良織（ゆうからおり）を贈呈する日本高校生



↑シュエダゴンパゴダ（寺院）の絵を贈呈するミャンマー高校生



↑ミャンマー連邦共和国 教育省にて記念撮影

◆ 在ミャンマー日本国大使館（歓迎会） 11月2日（ヤンゴン）



↑駐ミャンマー日本国大使館泰松 参事官よりご挨拶

（スピーチより抜粋）

今回の日本とミャンマー両国高校生の皆さんの交流は、貴重な機会ですので、ミャンマーの文化に触れる上で色々なものを食べたりチャレンジしてみてください。また、1週間のプログラムの中で経験したことを皆さんの後輩に伝えていってほしいと思います.....。

（サン・サン・イ 局長 のスピーチより抜粋）

今回のミャンマーでのプログラムを通じて、お互い交流し、多くのことを学んでいただきたいと思います。ホームステイでは、ミャンマーの生活を学び、その経験を日本に帰った時に友人や家族と共有していただきたいと思います。また、外国での出会いを大切にしてください.....。



↑ヤンゴン地域教育局局長よりご挨拶



↑泰松 参事官にマンダレー王宮の絵を贈呈するミャンマー高校生



↑泰松 参事官に北海道伝統工芸品である無病息災を表す
鬼の置物を贈呈する日本高校生



↑イオンオレンジ（株）川戸 社長と交流する日両国高校生



↑泰松 参事官と交流する日本高校生



↑パフォーマンス書道を披露する日本高校生



↑ミャンマー伝統舞踊を披露するミャンマー高校生



↑日本高校生代表スピーチ

今回のプログラムでは、多くのミャンマーの人たちと話をすることで、ミャンマーという国についてもっと詳しく知りたいと思っています。初めての海外経験ですが、日本からの代表である「十代の大使」として一つでも多くのことを学びたいと思っています.....。



↑歓迎会での記念撮影（両国高校生、引率、ご来賓、2013年ミャンマーティーンエイジアンバサダーOB・OG）

◆ ジェトロ ミャンマー経済状況レクチャー 11月2日（ヤンゴン）



↑ジェトロ ミャンマーオフィス 澤田 様によるミャンマー経済状況についてのレクチャーを受ける日本高校生



↑ジェトロ ミャンマーオフィス 澤田 様に記念品（北海道工芸品であるふくろうの木彫り）を贈呈する日本高校生

【2】【歴史・文化理解活動】

◆ 日本人墓地訪問 11月2日（ヤンゴン）



↑礼拝堂で線香をあげる日本高校生



↑線香をあげた後に記帳をする日本高校生

◆ ボージョーアウンサン博物館見学 11月2日（ヤンゴン）



↑館内でガイドの説明を真剣に聞く日本高校生

◆ 托鉢体験 11月3日（ヤンゴン）



↑早朝に列を成して歩く僧侶にお供え物を渡す日本高校生

◆ 障がい者職業支援施設訪問 11月3日（ヤンゴン）



↑現地駐在代表 中川 様より国際協力入門のレクチャーを受ける日本高校生



↑施設で学ぶ訓練生より自己紹介を受ける日本高校生



↑現地駐在代表の説明を聞く日本高校生

（AAR Japan 駐在代表 中川 様の説明より抜粋）
ミャンマーでは、社会福祉体制が整っておらず、障がい者のための施設はほとんどなく、教育、就労の支援が必要です。この施設では一定の基準を設け、障がいがあっても習得しやすい理容・美容、裁縫、パソコンを教えています……。

◆ 僧院訪問 11月3日（ヤンゴン）



↑僧院で子どもたち受けている授業を見学する日本高校生



↑築約 100 年の寺子屋の前で説明を受ける日本高校生

障がい者職業支援施設、僧院訪問の感想

障がい者職業訓練施設でのレクチャーを聞いて、日本と比べてかなり高い確率で就職先が決まっていることに驚きました。また、僧院は、勉強をしたくてもできない子どもたちの救いになると思いました。

障がい者職業訓練施設では、全ての障がい者が訓練を受けられるようになればと思いました。僧院の訪問は、ミャンマーだからこそできた貴重な体験でした。

ホストファミリーがホームステイ中に、今回見学した所とは別の僧院で僧侶のために 200～300 人分の食事を用意し、食事を共にする場を見られたことは貴重な体験になりました。

僧院では、教育の大切さを感じ、知識を身につけることが社会全体を良くする第一歩だと思いました。将来はこのような環境にいる子どもたちを支援したいと思います。

【3】【交流活動】

◆ イオンガンゴースクール訪問 11月3日（ヤンゴン）



↑校門にて生徒たちに歓迎される日本高校生



↑子どもたちに折り紙を教える日本高校生



↑校庭で子どもたちとサッカーに興じる日本高校生



↑イオンガンゴースクール生徒、校長先生と記念撮影する日本高校生

◆ 学校訪問・授業体験 11月4日（ヤンゴン）



↑ダゴン No.1 高校生に迎えられる日本高校生



↑歓迎セレモニーにてよさこいを披露する日本高校生



↑英語の授業でグループワークをする両国高校生



↑英語の授業でペアに教わる日本高校生



↑ダゴン No.1 高校生とバスケットボールをする日本高校生



↑パソコンの授業体験でペアに説明を受ける日本高校生



↑アートの授業で描いた絵をみせる両国高校生



↑工作の授業で作ったアクセサリーをみせる日本高校生

◆ ホームステイ 11月4日ー6日 (ヤンゴン)



↑ホストファミリーと食事を囲む日本高校生



↑ホストファミリーとTシャツを選ぶ日本高校生



↑ペアにアルバムを見せるミャンマー高校生



↑お揃いの民族衣装を着てペアと買い物中の日本高校生 (写真左)



↑シュエダゴンパゴダの前でホストファミリーと写真を撮る日本高校生 (写真中央)

ダゴン No.1 高校 ホストファミリーのコメント (アンケートより抜粋)

ホームステイ準備について特に問題はありませんでした。賢く、素晴らしい生徒でした。私のもう一人の娘だと思っています。

ホームステイの機会を設けて頂いて感謝しています。もう少し長ければ良かったと思いますが、日本とミャンマー両国の友好関係が深まったと確信しています。

ホームステイを楽しんでもらえて嬉しく思います。ミャンマー家庭料理を気に入ってもらえてよかったです。

生徒たちは互いの文化について学ぶ良い機会だったと思います。ホームステイを含め、このプログラムに参加できてよかったと思います。

◆ フェアウェルパーティー 11月6日（ヤンゴン）



↑イオンマイクロファイナンス（株）ミャンマー 社長より代表のご挨拶

（イオンマイクロファイナンス（株）ミャンマー 木坂 社長のスピーチより抜粋）

日本 ミャンマー両国のみなさんは、このプログラムを通じて経験したことで、感じたことを大切にしてください。来年の2月には、日本プログラムが待っています。日本での交流を通じて、お互いの親交を更に深めていただきたいと思います.....。



↑イオンモール（株）ミャンマー駐在事務所 所長より乾杯のご挨拶

（イオンモール（株）ミャンマー駐在事務所 西井 所長のスピーチより抜粋）

異国の生活を体験し、今後何か新しいことを学ぶきっかけになったのではないかと思います。今回のプログラムでの貴重な経験を通じて、友人ネットワークを拡げ、今後の人生をより実り多いものとされることを心より願っております.....。



↑伝統舞踊を披露するミャンマー高校生



↑やさこいソーランを一緒に踊る両国高校生



↑ホストファミリーと記念撮影をする日本高校生（写真中央）



↑2013年ティーンエイジアンバサダーOBと記念撮影をする日本高校生



↑日本高校生代表スピーチ

私たちには、これからそれぞれの国の文化に固有の価値を見いだせるような努力が必要になってくると思います。そのためには、海外の文化に触れる機会を沢山持つべきです。どの様なきっかけでも良いので、異国情緒を感じるための一人一人の働きかけが大切だと私は思います.....。



↑ミャンマー高校生代表スピーチ

ミャンマーでの日本のみなさんとの交流を通じてお互いの生活スタイルや習慣など多くのことを学ぶことができました。2 日間のホームステイはあっという間でした。短い間でしたが、来年 2 月の日本プログラムでまた会えることを楽しみにしています.....。



↑「We are the world」に乗せた今回の活動のスライドショーを観る両国高校生、ホストファミリー



↑別れを惜しみ抱き合う両国高校生



↑フェアウェルパーティーでの記念撮影（両国高校生、ホストファミリー、ご来賓）

VII. 参加者の感想：（スピーチ、アンケートより抜粋）

日本
高校生



ホームステイでは、ホストファミリーがとても親切に接してくれました。コミュニケーションをとることに少し不安がありましたが、ジェスチャーを使ったり、単語だけでも会話ができたことに驚きました。2 日間のホームステイを通して、何事も積極的に取り組むことが大切だと感じました。．．．



このプログラムに参加するまでは、異なる文化や食事を経験することに対して不安でした。しかし、実際にミャンマーに行き、実際に文化に触れ、食事をしていくうちにだんだんミャンマーが好きになってきました。先入観で全てを判断せず、実際に経験することの大切さを学ぶことができたと思います。．．．

ミャンマー
高校生



登別明日高校のみなさんと交流することが貴重な経験になりました。1 週間の間に日本の文化や生活スタイルについて学ぶことができました。ネービードーまで移動する間に、ペアや他の日本のみなさんと話す時間がたくさんあったので、日本の友人がたくさんできました。来年 2 月に日本に行く時が楽しみです。．．．



このプログラムを通じて日本の生活習慣やコミュニケーションのとり方など、多くのことを学ぶことができました。ホームステイについては、もう少し日数が多ければ、もっとヤンゴンの見どころをペアに紹介できるのと思いました。．．．

引率先生



障がい者職業支援施設や僧院を訪問することで、ミャンマーの貧富の差を感じることができました。また、ミャンマーの生徒がみな真剣に学習に取り組む姿は、日本の生徒も多いに学ぶべきだと感じました。ミャンマー、日本両国のプログラムを通じて生徒同士の絆も深まることと思います。．．．



ミャンマーで生徒たちが体験した政府表敬訪問、在ミャンマー日本大使館での歓迎会、授業体験、ホームステイは、彼らにとって国際性を養うのにとても貴重であると思います。ミャンマー高校生とペアを組む上で、ミャンマー語のあいさつ等簡単な会話を覚えていくと、相手の印象がもっと良くなると思いました。．．．